

# 教職及び教育の制度・経営論 － 諸外国の教育事情 －

令和2年11月13日（金）

近森 憲助

# 国際的な教育の動向

- 全体的なトレンド: 教育はそれぞれの国や地域に特有の文化と強いつながりを持つ。しかし、最近では、国や地域の違いを越えて、教育を同じようなものにしようという(平準化)の動きが加速している。
- 今日の授業では「諸外国の教育動向」というよりは、「国際的な教育動向」についてお話しします。
- 話題は二つ;
  - 国際学力調査(PISA, TIMSS): 教科書94頁
  - 持続可能な開発のための教育(ESD)と持続可能な開発目標(SDGs)

# 国際学力調査(PISA、TIMSS)

調査	生徒の学習到達度調査(PISA)	国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)
実施機関	経済協力開発機構(OECD)	国際教育到達度評価学会(IEA)
目的	義務教育修了段階においてこれまでに身につけてきた知識や技能を、 <b>実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるか</b> を測る。	初等中等教育段階における <b>児童・生徒の算数・数学及び理科の教育到達度を国際的な尺度によって測定し、児童・生徒の学習環境条件等の諸要因との関係</b> を分析する。
内容	読解力、数学的及び科学的リテラシーの3分野(実施年により中心分野を設定して重点的に調査)。あわせて、生徒及び学校質問紙による調査を実施。	算数・数学、理科。あわせて、児童・生徒、教師及び学校質問紙による調査を実施。
対象	調査段階で15歳3か月以上16歳2か月以下の学校に通う生徒(日本では高校1年生が対象)	<ul style="list-style-type: none"><li>・9歳以上10歳未満の大多数が在籍している隣り合った2学年のうちの上の学年の児童(日本では小学校4年生)</li><li>・13歳以上14歳未満の大多数が在籍している隣り合った2学年のうちの上の学年の生徒(日本では中学校2年生)</li></ul>
実施年	2000年から3年ごと。	1964年から実施。1995年からは4年ごと。

知ってるだけじゃダメ!

# PISA2015とTIMSS2015のランキング

- PISAとTIMSSのランキング(配付資料1)
- PISAとTIMSSのランキングを比較してみて、気づいたことをノートに書いてみましょう。
- 例えば、PISAでは、
- OECD(経済協力開発機構)加盟国で比較すると科学的及び数学的リテラシーで日本は1位だが、読解力は6位。
- 全参加国・地域では、3つの分野すべてで1位がシンガポール。
- では、TIMSSでは、どうだろうか？

# PISAとTIMSSの問題例(平成17年版:文科省)

- PISAの問題は配付資料2に示してあります。課題文1を読んで、問1の解答を考えて下さい(課題文2と問2は省略)。
- TIMSSの問題
  - －小学校4年算数－

□は、まゆみさんが、毎週読んでいる本の数を表しています。まゆみさんが6週間で読む本の合計を表す式は、次のどれですか。

①  $6 + \square$    ②  $\square \times 6$    ③  $\square \div 6$    ④  $6 \times (\square + \square)$

－中学校2年数学－(次のスライドへ)

# 中学校2年数学の問題

- 下の3つの図形は、小さな合同な三角形に分けられています。

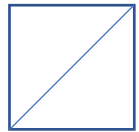


図1

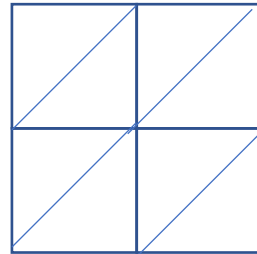


図2

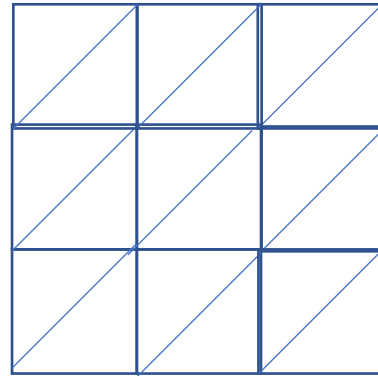


図3

図	小さな三角形の数
1	2
2	8
3	
4	

ア) 右上の表を完成させなさい。はじめに、図3の中の小さな三角形がいくつあるかを書き入れなさい。次に図1、図2、図3と同じようにして4番目の図4を作ったときの小さな三角形の数を書き入れなさい。

イ) 同じようにして7番目の図を作ります。図7の中には小さな三角形がいくつありますか。

ウ) さらに同じようにして50番目の図を作ります。50番目の図の中にある小さな三角形の数の求め方を説明してください。図50をかいてその中の小さな三角形の数を数えてはいけません。

# 持続可能な開発のための教育(ESD)と 持続可能な開発目標(SDGs)

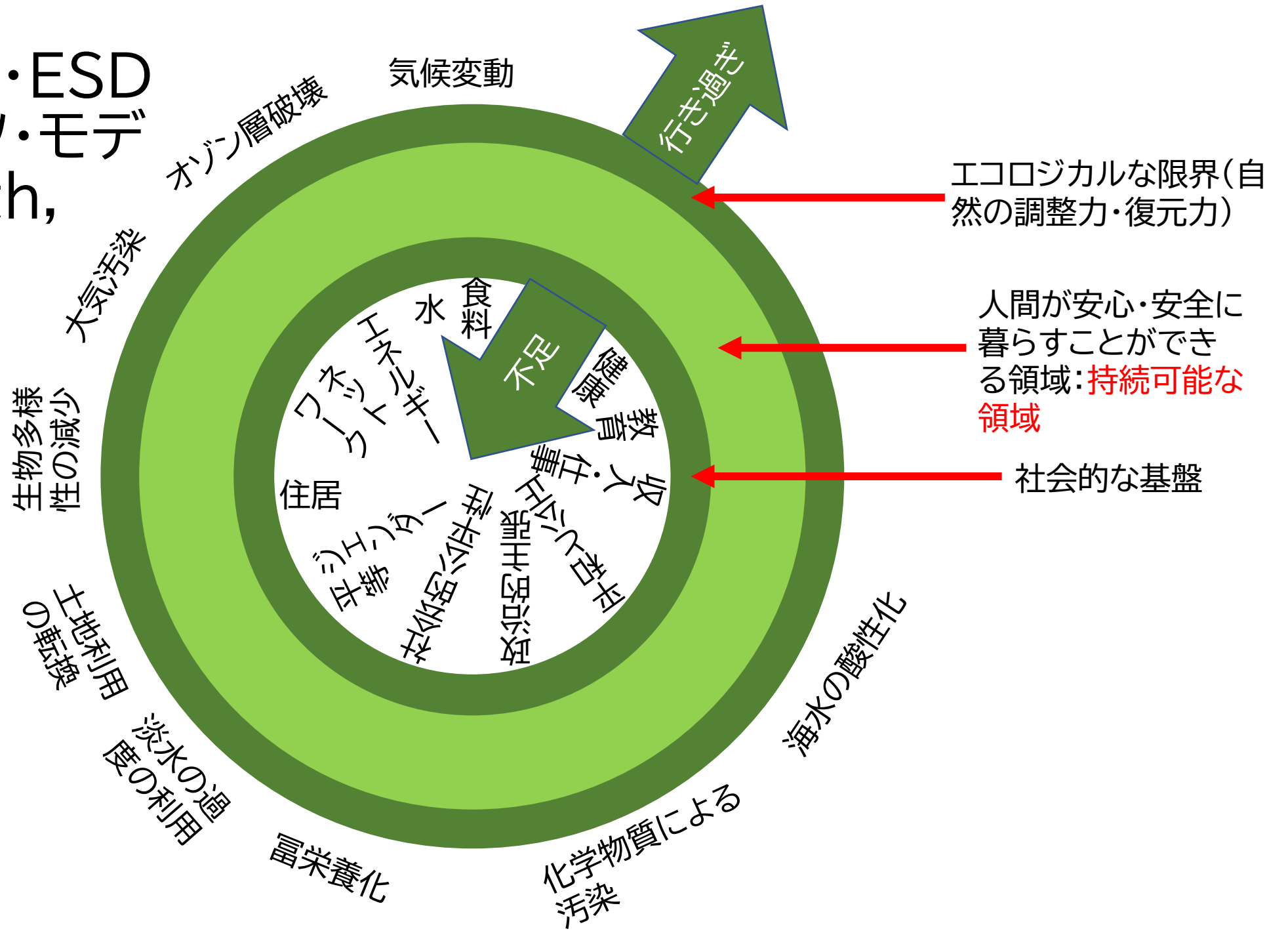
- ESD:次に示す二つの基本認識を身につけた児童・生徒が育つ「社会化のプロセス」⇒大人が育つプロセス
- 二つの基本認識とは;
  1. 今の社会の姿や生活の在り方は、過去の人間の活動に依存している。
  2. 今の人間の活動は、今の社会を存続させたり、変えたりするだけでなく、将来の人々の生活を左右する。つまり、大人とは、今の目の前のことだけではなく、これまでのことを考え、これから先のことにも目を向けている人のことだということ。

# ESDと学習指導要領

- 2016年、文部科学省は、「ESD推進のためのガイドライン」を作成し、学校や教育委員会に配布した。
- 翌年の2017年には、新学習指導要領を告示し、その前文において「一人一人の生徒が、＜中略＞持続可能な社会の創り手となることが求められる」とした：小学校では、2020年度から、中学校では2021年度から実施される。
- ところで「持続可能な社会」とは、どんな社会なの？今は持続可能な社会ではないのか？



# コロナ・大雨・ESD とドーナッツ・モデル(Rawarth, 2017)



# SDGsとは？

- SDGsは、おりしも国連創立70周年にあたる2015年9月に国連総会で議決されたもので、Transforming Our World: The Agenda 30 for Sustainable Development:(私たちの世界を変える:持続可能な開発のためのアジェンダ30)という行動計画の軸となり、2030年までに、「誰一人置き去りにすることなく(序文)」世界中の人々が協力して、持続可能な開発という「目標達成に向かって、みんなとともに歩む旅(序文)」のガイド。加盟国すべてがこの方針のもとで取り組むこととなっている。
- 17の目標と169のターゲットできており、その後達成評価のための230の指標(グローバル・インディケーター)も作られた。
- ゴール 3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
- ターゲット 3.1 2030年までに、世界の妊産婦の死亡率を出生10万人当たり70 人未満に削減する。
- ターゲット 3.2 全ての国が新生児死亡率を少なくとも出生1,000件中12件以下 まで減らし、5歳以下死亡率を少なくとも出生1,000件中25件以下まで 減らすことを目指し、2030年までに、新生児及び5歳未満児の予防可 能な死亡を根絶する。



# SDGs と ESD



- ゴール4（すべての人々へのインクルーシブかつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する）のターゲット4.7において、ESDは、持続可能な開発の促進するための知識及びスキルを習得する手段として位置付けられた。
- ターゲット4.7：2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。